



▲木の皮を食べるシカ

▲三嶺の「さおりが原」 右写真は平成14年に撮影。希少植物も宿す豊かな森でした。左写真は平成19年に撮影。下草のマネキグサがシカの食害被害に遭い、林床砂漠化状態に。平成20年3月にシカの防護柵を設置し、マネキグサは蘇りました。シカが好んで食べる草木の中には、貴重な絶滅危惧種が含まれています。

冬季の田を活用した地下水涵養事業面積 (単位:a)

年度	合計
18年度	395.8
19年度	603.0
20年度	624.5
21年度	629.3
22年度	673.5
23年度	653.8
24年度	693.4



市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。

### 冬季の田を活用

市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。



▲ビニールハウスの雨水浸透枮

市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。

市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。

### 雨水浸透枮の設置

市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。

### 用排水路の底抜き

市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。

### 水源涵養林の整備

市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。

市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。

市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。

問い合わせ 企画課 ☎57-80503

# 水の恵み

人が生きていくためには、水はなくてはならないもの。家庭では、炊事や洗濯、風呂、水洗トイレで使うのをはじめ、飲食店やホテル、プール、学校などの公共の施設などでも多くの水が使われています。また、生活のための水だけではなく、農作物を作るための田や畑にも必要ですし、工場でも大量の水を使っています。

水は人々の暮らしになくてはならないものです。このページでは、水資源を守っていくための市の対策や、2月9日に高知工科大学で行われた、物部川シンポジウムの内容を紹介しながら“水の恵み”について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



2月9日(土)

## なんで濁っちゅうが？物部川

物部川を考えるシンポジウム

高知工科大学の講堂で行われた「物部川を考えるシンポジウム」では、約200人の参加者が、香美森林組合や流域住民らの討論に耳を傾けました。

### 物部川の恵み

標高1,770mの白髪山から太平洋まで約71kmの距離を下つていく物部川は、高知県の一級河川の一つです。江戸時代に野中兼山が、山田堰や灌漑用水を手掛け、物部川の豊富な水が香長平野の隅々まで行き渡るようになり、農業を発展させました。この恩恵は、現在も続いており、野市町の北部地域では、生産量日本一のニラ栽培の散水用などに利用されています。また、地下水は飲料用水や農業用水、工業用水などに利用されています。

### 山のチカラ

川の様子は、50年前と比べて随分変わってきました。水の源となる山の保水力は、林業の低迷で森林保全が進まなかったことや、生活環境の変化などから水源を守る人たちが山里から離れたり高齢化したことで、時代の流れとともに低下しています。

### なんで濁っちゅうが？

平成16年の集中豪雨や平成17年の台風によって、三嶺など物部川流域で山腹崩壊が発生し、大量の土砂が流下しました。その結果、上流から流れた土砂やヘドロを長年ため込んだダムの影響などで、雨のたびに濁水が発生。昨年は激しい濁水とな

### 人のチカラ

「物部川21世紀の森と水の会」や流域の人々で組織された「アーク・リプル・ネットワーク」などでは、昔の自然豊かな物部川を取り戻す運動を10年以上前から始めています。間伐や、シカの食害防止ネット張り、子どもや大人たちへの環境学習などを精力的に行っています。



シカ食害防止ネットを木へ巻き付けているボランティア

市では各課が連携し、さまざまな水源涵養事業を実施しています。みんなの水を守るために

### 物部川を守る活動にみんなのチカラを！

シンポジウムの中で、香美森林組合の野島常総組会長は「山の保水力の低下は、戦後、国策によって増え続けた人工林の価格低迷や、山の手入れをする人の減少などで、十分な管理ができない状態になったことや、シカの食害による影響などが考えられます。しかし、このような状態になってしまったことを悔いるより、前を向いてどうすれば昔の環境を取り戻せるのかを考えて行かなければいけません」と訴えました。

これから始まる新たな取り組みには、市民の皆さんのご協力が必要です。シカの食害防止ネット張りや、川の清掃イベントを広報でもお知らせします。ぜひ、この取り組みに注目し、参加していただきたいと思っています。